

●さくらフォーラムの活動

●6月10日(土)卒業論文報告会を開催

「世田谷区桜新町における戸建て住宅地の変容と実態—新町住宅地を中心として—」

相続等による建て替えや敷地の細分化等による市街地の変容による街並み景観の変化を明らかにしようと、現地踏査、街並み写真撮影、現地ヒヤリング及び住宅地図の1976(昭和51)年版と2016(平成28)年版の比較にもとづいて、東海大学の学生が上記タイトルの卒業論文が書かれたので、指導教官の加藤仁美教授からご報告を受けました。

まとめとして、住宅地図上で1976年版と2016年版とで苗字の変わっていない住宅を居住継承と扱うと、新町住宅地エリアでは約24%の敷地で居住継承がみられて、敷地の細分化が進行しても、「継承」のケースでは、緑化を中心とした良好な景観が維持される傾向にあり、一方、継承されずに売却された敷地では、緑が減少し、景観の統一感が保たれにくいことがみとめられたとのことです。

あわせて別の論文「玉川田園調布における地区計画策定エリアの戸建住宅地の変容と実態」のご紹介も受け、深沢・桜新町と玉川田園調布の比較についてもうかがいました。居住継承については、新町住宅地エリアの約24%に対して玉川田園調布一、二丁目では約32%だったとのことです。

*玉川田園調布一、二丁目は、地区計画という都市計画によって、敷地面積の最低限度が130㎡又は160㎡と定められています。

それに対して、新町住宅地エリア(桜新町一丁目の一部、深沢八丁目の全部、深沢七丁目の一部)の第一種低層住居専用地域における敷地面積の最低限度は80㎡です。

会場からは、「玉川田園調布では、敷地を細分化して売却することが難しいので、居住継承が選択されるのではないか。」という意見が出ました。また、講師から「深沢・桜新町の方が玉川田園調布より柔らかい街並みという印象を受けた」との感想をいただきました。

報告会後の懇親会も含めて、私たちのまちについて考えるよい機会となりました。

●4月2日(日)お花見まち歩きを開催

●4月16日(日)さくらまつりに出展(桜新町商店街振興組合主催)

●4月22日(土)ゴミゼロデーに参加(桜並木花びら清掃、桜新町親和会主催)

●サザエさん通りが区の通称道路名に決定(右図は、区報6月15日号掲載の一部)

これまで呼ばれてきた駅前通り～交番のあるY字交差点東側道路の国道246号までの区間に、Y字交差点～長谷川町子美術館までを加えて決定されました。



①がサザエさん通り

●まちの変化

ニュースレター24号(2016年10月発行)で、区画の変化が多く見られることをお伝えしましたが、引き続き、土地の販売のチラシが入り、まちの中で「分譲中」などの幟が見られる状況が続いています。まちの魅力を高める機会になるといいですね。

●「深沢・桜新町100年史」の有償版(定価500円)を増刷・配布しています。

購入ご希望の方は、下記までなるべくファックスで、ご住所、お名前、お電話番号をお知らせの上、お申込みください。

●会員募集中:この地域の景観・環境・みどりなどに関心のおありの方は、ぜひ、ご参加ください。

発行元: 深沢・桜新町さくらフォーラム <http://sakura-forum.jimdo.com/>
〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-6 フェリックス気付 電話:03(3702)3274 FAX:03(3702)3219

©深沢・桜新町さくらフォーラム、2017

世田谷区地域の絆連携活性化事業補助金を申請して作成しました。



深沢・桜新町さくらフォーラムは、地域の風景づくりの活動に取り組む市民団体です。<http://sakura-forum.jimdo.com/>
2、3面:みどりのガイドブック紹介、100年史こぼれ話 4面:さくらフォーラムから、地域の話ほか

魅力ある住宅地からの

「みどり」をテーマにした3つの発信

世田谷区内で

「みどり」をテーマにした小冊子がつくられ、つくられようとしています。

○玉川田園調布では、

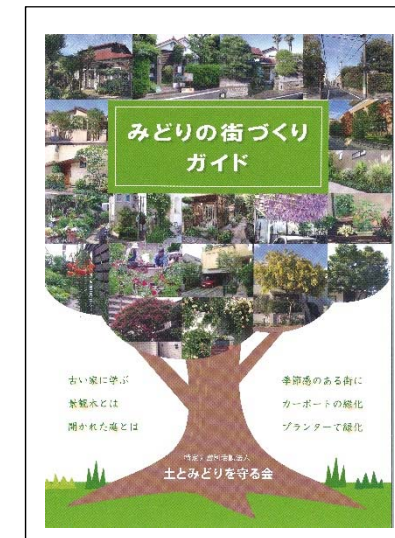
『みどりと花の CASE BOOK』 →

○奥沢では、『みどりの街づくりガイド』 ↓

○成城では、

『みどりのスタイルブック』

↓(事前のPR版 A3版三つ折)



『みどりと花の CASE BOOK』、2012年7月、A5版表紙共16ページ

企画: 林泰義(玉川田園調布住環境協議会会長)

編集: 玉川田園調布住環境協議会

『みどりの街づくりガイド』、2017年3月、A5版表紙共12ページ

企画・取材: 特定非営利活動法人土とみどりを守る会

制作: 多摩美術大学堀内チーム

『成城みどりのスタイルブック』、2017年6月末～7月発行予定

A3版二つ折表紙共48ページ

制作・発行: 成城みどりのスタイルブック制作チーム、法人格成城

自治会、一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

ご紹介することについて、各団体のご了解を得ました。厚くお礼を申し上げます。

3つのまちの冊子には
たくさんのステキな事例が紹介されています。

・・・私たちのまちの事例を見てみましょう。

①大きな樹木を大切に
シンボルツリー、景観木
にわろじゅ
庭路樹と名づけて

深沢（7丁目の一部と8丁目）・桜新町（1丁目）には、世田谷区の保存樹木に指定された樹木 24 本と同じく名木百選に選定された樹木群があります。



名木百選に選定されているプラタナス（3本）



豊かな庭路樹



突き当たりの姿のよい松

3つの冊子に共通の
3つの提案①、②、③

これらを参考に、深沢・桜新町では

訪れる人・住む人の思いがちな
歩いて楽しく、心地よい
「みち」にしませんか。

②敷地の道路沿いを
「まち」にひろこう



「みどりの空間にからだを休めてみませんかー椅子には「どうぞお休みください」のメッセージ（写真をご提供いただきました。）

③塀や壁、駐車スペース
にみどりを



みどりに溶け込み景色になった車



スリットを入れ、みどりを配して柔らかい表情を見せている塀

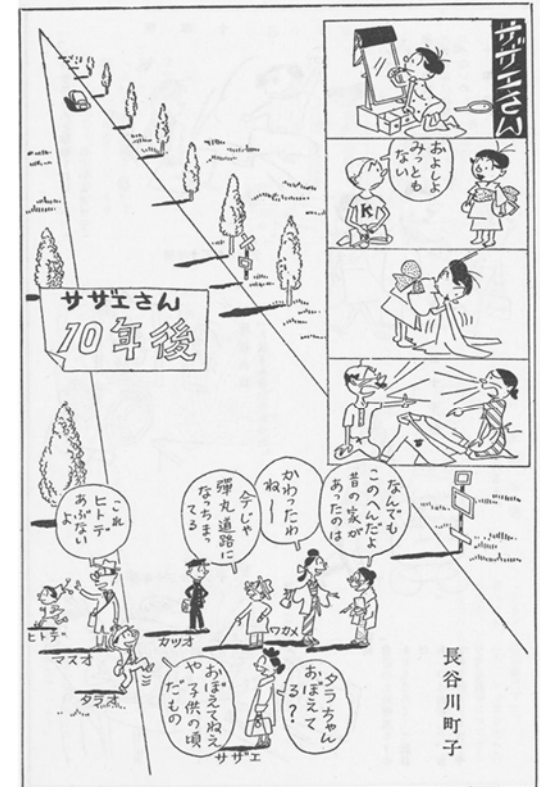
成城みどりのスタイルブック	みどりの街づくりガイド	みどりと花のCASE BOOK
成城のみどり豊かな暮らし 成城のみどりのライフスタイル		みどりと花は“まちのたからもの”
みどりづくり7つのポイント	○奥沢の古い家に学ぶ ○ 景観木 ー土とみどりを守る会が推奨する ○「 開かれた庭 」ーみどりの街づくりガイドが提案する ○季節感のある街に ○ カーポートの緑化 ○プランターで緑化	<ニワ> ・ まちに開かれた“ちび庭・おび庭” ：敷地の小さな一角や細長い空き地の園芸 ・「 庭路樹 」という見立て：街路樹役の丈の高い庭木 ・ご近所のみどりが園芸のきっかけ ・緑化が育てるエコ環境：アドバイザー・セミプロ市民 <マチ> ・住まいと店先：まちとの接点を緑花でむすぶ ・ “硬いまち”を“みどりと花”の柔らかな表情で彩る ・ “みちかべ外し”で四つ辻が変わる
1. 季節を告げる・アクセントをつける シンボルツリー に着目	注：ここでの定義	<コミュニティ> ・KEYAKI GARDEN 物語：そしてケヤキは遺った… ・みどりと花の絆からコミュニティを実感できる暮らしへ
2. ちょっとしたところに取り入れる ガーデニングのすすめ	○ 景観木 ：街の目印となっていて、良好な風景と環境の創造に貢献している木	
3. 人工物の印象をやわらげる 塀や駐車場にもみどりを	○「 開かれた庭 」：通りから見える緑を増やすような、様々な工夫のことです。	
4. おとなりを意識してつながる みどりが連続する街並みを		
5. まちにひらいて 、おもてなし オープンガーデン		
6. 次世代に引き継ぐ 成城の伝統的な景観		
7. 地球環境に貢献する 庭ではじめる、資源循環		

「弾丸道路」の60年ー100年史こぼれ話ー

荻部直（政治学者、本会会員）

国道 246 号線は、かつての玉電、いまの東急田園都市線とほぼ同じ道筋を通っていますが、新町一丁目の交差点から瀬田交差点までは旧玉電通りに沿って迂回することはなく、まっすぐ突き抜けるコースになっています。これが作られた当時、「弾丸道路」と呼ばれたことをご記憶の方もおられるでしょう。

実はこの「弾丸道路」、漫画『サザエさん』に登場します。とは言っても朝日新聞連載の四コマ作品ではありません。1954年12月、『文藝春秋漫画読本』創刊号*に掲載された「サザエさん 10年後」という題の一コマの漫画。想像のなかの1964年に、磯野家の場所は広い道路になっていて、影も形もありません。そこを訪れた一家が会話を交わしています。「なんでもこのへんだよ昔の家があったのは」「かわったのねー」「今じゃ弾丸道路になっちゃってる」。



作品が描かれた当時の世田谷区議会では、この道路建設をめぐる、反対派と推進派がはげしく対立していました。これはもともと、東京・神戸間を結ぶ「弾丸道路」

© 長谷川町子美術館

の一部として計画されたもの。「弾丸道路」とは昭和戦前期から高速道路のことを呼んだ名称です。しかし、新町・瀬田間の工事計画が明らかになった1953年前半には朝鮮戦争がまだ継続中、日本の再軍備も始まったときで、駐留米軍のための施設に関する日米行政協定に基づき、国の予算によって作ることとされました。

また同じ53年に、用賀の旧陸軍衛生材料廠に米軍倉庫の建設が始まり、基地反対の住民運動が巻き起こって、都内では初めての基地反対デモが年末に行なわれます。その空気のなかで、「弾丸道路」の建設についても反対の声があがりました。実際に軍用車両が通るのにも使われたかもしれませんが、むしろ平和を願う強い意識が、地域の分断に対する批判をあとおししたのでしょうか。周辺の160戸、300世帯が道路建設に反対する運動に加わったと新聞記事（朝日新聞、1954年12月13日朝刊）にはあります。

しかし1955年に工事が始まり、1961年に開通したようです。それから現在まで、ほぼ60年。毎日のように通る道に、戦争と平和をめぐる熱い歴史が隠れていたことに驚かされます。

* 長谷川町子美術館、株式会社文藝春秋から著作物使用の許諾を得ています。